

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## AIAI グループ

6557 東証グロース市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2023年12月19日(火)

執筆：客員アナリスト

**水田雅展**

FISCO Ltd. Analyst **Masanobu Mizuta**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## 目次

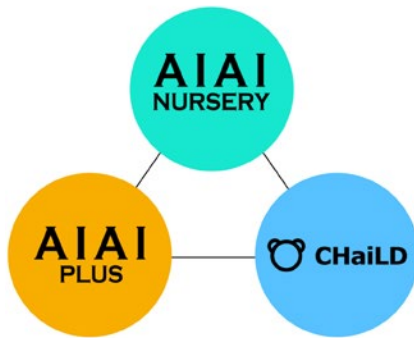
■ 要約	01
1. 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能施設 AIAI PLUS が主力	01
2. 特色ある独自の幼児教育プログラムなどが特徴・強み	02
3. 2024 年 3 月期第 2 四半期累計は営業黒字定着	02
4. 2024 年 3 月期通期は営業・経常利益を大幅に上方修正、さらに再上振れ余地あり	02
5. AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025	03
6. 発達に障害をかかえる子どもの増加に対応した新たなビジネスモデル構築も注目点	03
■ 会社概要	04
1. 会社概要	04
2. 沿革	05
■ 事業概要	06
1. 事業概要	06
2. 特色ある幼児教育プログラムが特徴・強み、千葉県において圧倒的シェア	07
3. 収益特性	08
4. リスク要因と対策・課題	10
■ 業績動向	11
1. 2024 年 3 月期第 2 四半期累計連結業績の概要	11
2. 財務の状況	13
■ 今後の見通し	14
● 2024 年 3 月期通期連結業績予想の概要	14
■ 成長戦略	15
1. 事業環境は概ね良好	15
2. AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025	17
3. 株主還元策	19
4. サステナビリティ経営	19
5. アナリストの視点	20

## ■ 要約

### 保育・療育・教育を提供する「AIAI 三育圏」

AIAI グループ <6557> は、経営理念に「夢に向かって成長しつづけよう」、グループビジョンに「人口問題の解決」を掲げ、特に未就学期の子どもに関する事業として東京・千葉・大阪を中心に「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」を展開している。

AIAI グループの3つの子ども関連事業



出所：「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

AIAI 三育圏



#### 1. 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能型施設 AIAI PLUS が主力

同社は千葉県・東京都・大阪市及び神奈川県を事業エリアとして、認可保育園 AIAI NURSERY、多機能型施設（児童発達支援及び保育所等訪問支援事業所）AIAI PLUS を主力に、幼児教育プログラム等も展開している。2024 年 3 月期上期は AIAI NURSERY を 5 施設新規開設し、上期末時点の施設数は AIAI NURSERY が 86 施設、AIAI PLUS が 17 施設、AIAI MAISON、AIAI HOUSE、AIAI FACTORY が各 1 施設の合計 106 施設となった。認可保育園経営数は業界 6 位規模である。また同社は療育分野の需要増に対応して AIAI PLUS の新規開設も推進している。

## 要約

## 2. 特色ある独自の幼児教育プログラムなどが特徴・強み

同社の特徴・強みとしては、特色のある独自の幼児教育プログラムが高い評価を得ていること、千葉県・東京都・大阪市に集中したドミナント戦略によって効率よく展開しているなどがある。さらに近年需要が高まっている療育の分野においても豊富なノウハウと実績を有している。この結果、特に千葉県においては圧倒的なシェアを誇っている。なお認可保育園の収益特性としては一般的に、新規施設開設時は費用先行や低在籍数・低在籍率で赤字だが、開設後 3～4 年目以降になると在籍数増加・在籍率上昇によって収益化（黒字化）する。AIAI PLUS は AIAI NURSERY と同じ建物で運営できるケースもあり、AIAI NURSERY に比べて投資額を抑えられることに加え、AIAI NURSERY とのシナジー効果で集客力や採用力の強化、戦略的な人員配置などにつながるメリットなどもある。さらに AIAI NURSERY は 4 月 1 日オープンを原則とするが、AIAI PLUS はオープン時期を自由に設定できるという柔軟性もあることなどから、AIAI PLUS は AIAI NURSERY に比べて早期の収益化が期待できる。

## 3. 2024 年 3 月期第 2 四半期累計は営業黒字定着

2024 年 3 月期第 2 四半期累計の連結業績は売上高が前年同期比 6.9% 増の 5,649 百万円、営業利益が 205 百万円（前年同期は 286 百万円の損失）、経常利益が 154 百万円（同 354 百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益が 18 百万円（同 836 百万円の損失）だった。売上面では、新規施設として AIAI NURSERY を 5 施設開設（うち 1 施設は定員を拡大し移転）したほか、既存施設において園児数が順調に増加して充足率が上昇したため増収と順調だった。利益面は営業黒字だった。増収効果や充足率上昇効果に加えて、保育士の適正配置推進や離職率の低下とともに採用を慎重に行ってきたため採用費が想定を下回ったこと、施設運営や業務の効率化によって人件費や経費の増加を抑制できたことなども寄与した。四半期別に見ると、売上面は新規施設開設と期中の充足率上昇によって増加基調である。また売上高の増加に伴って売上原価率と販管費比率が低下傾向となり、営業損益は 2023 年 3 月期第 2 四半期に 33 百万円の黒字に転換した後は営業黒字が定着した状況となっている。

## 4. 2024 年 3 月期通期は営業・経常利益を大幅に上方修正、さらに再上振れ余地あり

2024 年 3 月期の連結業績予想は、2023 年 11 月 2 日付で修正（営業利益を 150 百万円、経常利益を 350 百万円それぞれ上方修正）して、売上高が前期比 4.4% 増の 11,300 百万円、営業利益が同 333.6% 増の 350 百万円、経常利益が同 69.3% 増の 700 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 200 百万円（2023 年 3 月期は 506 百万円の損失）としている。売上面は新規施設開設や既存施設における園児数増加と充足率上昇により期初想定水準の増収を見込む。なお下期には AIAI PLUS の新規開設 3 施設を予定している。営業利益については施設運営や業務の効率化によって人件費や経費の増加を抑制できることなども寄与する見込みだ。経常利益については施設開設補助金が想定を上回ることも寄与する。親会社株主に帰属する当期純利益については、上期に減損損失を計上したため期初予想を据え置いた。なお減損損失は 2023 年 3 月期との比較では減少するため、親会社株主に帰属する当期純利益は黒字転換予想としている。営業利益の上期進捗率が 58.6% と高水準であること、期末に向けてさらなる充足率上昇効果や生産性向上効果が期待できることなどを勘案すれば、通期会社予想に再上振れ余地があるだろうと弊社では考えている。

要約

## 5. AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025

同社は 2023 年 5 月に AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025 を策定した。テック分野の位置付け見直し、訪問支援サービスや幼児教育プログラムなどの新たなビジネスモデル構築も織り込んだ。目標数値としては 2026 年 3 月期の売上高 120 億円～ 130 億円、営業利益 3 億円～ 5 億円、3 ヶ年累計投資額 6.8 億円などを掲げた。基本戦略としては、AIAI NURSERY と AIAI PLUS を中心とした「AIAI 三育圏」によるグループシナジー効果の最大化を推進する。具体的戦略としては、AIAI NURSERY については 2026 年 3 月期末の施設数を 89 施設の計画としている。M&A も視野に入れるが、自前の新規施設開設スピードを抑えて利益の安定成長を推進する。AIAI PLUS については 2026 年 3 月期末の施設数を 21 施設の計画としている。AIAI NURSERY に次ぐ成長の柱として育成を継続するが、サービス品質のさらなる向上と収益の最大化を図るべく作業療法士など有資格者の獲得・育成に注力するため、人材獲得・育成ペースに合わせた出店計画を新たに策定した。同時に、専門家が保育施設を訪問してプログラムを提供する保育所等訪問支援を軸に、新たなビジネスモデルを構築して収益拡大を図る。

## 6. 発達に障害をかかえる子どもの増加に対応した新たなビジネスモデル構築も注目点

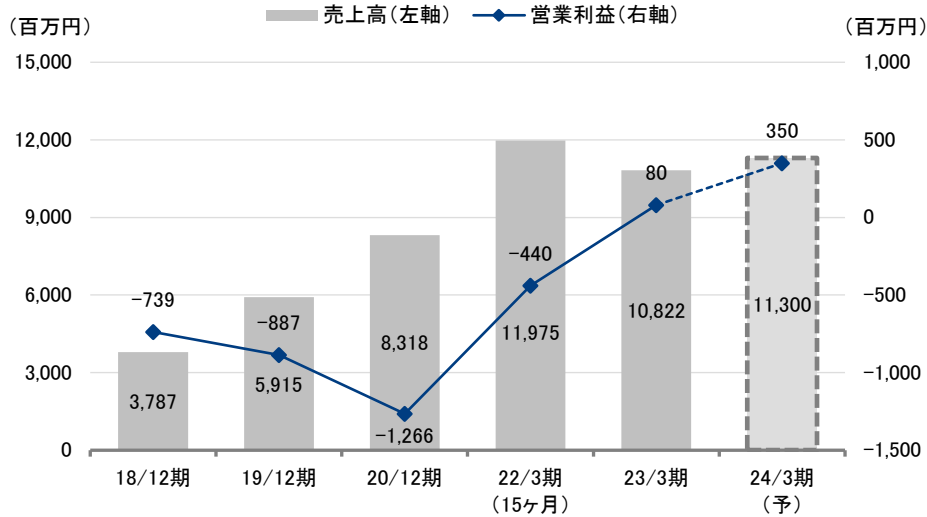
同社は 2023 年 3 月期第 2 四半期に初めて営業黒字化し、2024 年 3 月期は大幅営業増益予想としている。AIAI NURSERY において開設から 3 ～ 4 年以上経過した既存施設の割合が上昇して安定収益フェーズに入った形であり、当面の業績改善を弊社では高く評価している。また今後の保育園市場は競争激化が予想されるが、同社は質の高い独自の幼児教育プログラムや千葉県を中心とするドミナント戦略によって高い競争力を維持しながら収益が安定的に拡大し、AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025 の利益目標についても超過達成の可能性があると弊社では考えている。加えて、発達に障害をかかえる子どもの増加への対応が今後の国の重要政策となる可能性があり、同社が視野に入れている保育所等訪問支援を軸とする新たなビジネスモデルの構築についても注目したいと弊社では考えている。

### Key Points

- ・「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3 つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」
- ・特色ある独自の幼児教育プログラムなどが特徴・強み
- ・2024 年 3 月期第 2 四半期累計は営業黒字定着
- ・2024 年 3 月期通期は営業・経常利益を大幅に上方修正、さらに再上振れ余地あり
- ・AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025 でグループシナジー最大化を推進
- ・発達に障害をかかえる子どもの増加に対応した新たなビジネスモデル構築も注目点

要約

業績推移



注 1：20/12 期は開園準備費用計上変更組替後  
 注 2：24/3 期 (予) は 2023 年 11 月 2 日付で営業利益と経常利益を上方修正  
 出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 会社概要

### 人口問題を解決するための事業を推進し、 保育・療育・教育を一体的に提供する「AIAI 三育圏」を展開

#### 1. 会社概要

同社は、経営理念に「夢に向かって成長しつづけよう」、グループビジョンに「人口問題の解決」を掲げ、特に未就学期の子どもに関する事業として東京・千葉・大阪を中心に「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」を展開している。

本社所在地は東京都墨田区錦糸である。グループは 2024 年 3 月期第 2 四半期末時点で、同社 (持株会社) 及び連結子会社 3 社 (AIAI Child Care (株)、AIAI Life Care (株)、(株)CHaiLD) で構成されている。2024 年 3 月期第 2 四半期末時点の資産合計は 11,382 百万円、純資産は 1,379 百万円、自己資本比率は 12.0%、発行済株式数は 3,074,381 株 (自己株式 894 株含む) である。

会社概要

## 2. 沿革

2007年1月に保育・介護事業の運営を目的として東京都葛飾区新小岩に株式会社 global bridge を設立し、2007年3月に保育事業を開始、2011年7月に保育園運営管理システム Child Care System を自社開発した。そして2015年11月に持株会社である株式会社 global bridge HOLDINGS を設立、2017年10月に本社を現在地に移転、2022年1月に商号を現在の AIAI グループに変更（グループ子会社の商号も変更）した。

持株会社へ移行後の M&A・グループ再編では、2015年12月に global bridge を連結子会社化（現 AIAI Child Care）、global bridge からテック部門を分離して（株）social solutions（現 CHaiLD）を設立、2018年7月に（株）東京ライフケアを完全子会社化（その後2020年4月に global bridge が吸収合併）してサービス付き高齢者向け住宅運営を開始、2018年11月に（株）YUAN を完全子会社化（現 AIAI Life Care）して住宅型有料老人ホーム運営を開始した。

株式関係では、2017年10月に東京証券取引所（以下、東証）TOKYO PRO Market に上場、2019年12月に東証マザーズに上場、2022年4月の東証の市場再編に伴ってグロース市場に移行した。なお2023年3月には、前年に続き経済産業省と日本健康会議より「健康経営優良法人2023」の認定を取得した。

### 沿革

年月	項目
2007年 1月	保育・介護事業の運営を目的として、東京都葛飾区新小岩に株式会社 global bridge を設立
2007年 3月	千葉県千葉市花見川区にグループ初の保育施設「あい・あい保育園 幕張園」を開設
2011年 7月	保育園運営管理システム「Child Care System（チャイルドケアシステム）」の提供を開始
2011年10月	関西オフィスを開設（大阪府大阪市中央区本町）
2015年11月	株式会社アニヴェルセル HOLDINGS からの会社分割（新設分割）により株式会社 global bridge HOLDINGS を設立
2015年12月	株式会社 global bridge からテック事業を会社分割（新設分割）し、株式会社 social solutions を設立
2017年10月	東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場
2017年10月	本社を現在地（東京都墨田区錦糸）に移転
2018年 7月	株式会社東京ライフケアの株式を取得し完全子会社化、サービス付き高齢者向け住宅の運営開始
2018年11月	株式会社 YUAN の株式を取得し完全子会社化、住宅型有料老人ホームの運営開始
2018年11月	株式会社 YUAN の社名を、株式会社 global life care に変更
2019年 4月	会社分割により株式会社東京ライフケアの介護事業を株式会社 global life care に継承
2019年12月	東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
2020年 4月	株式会社東京ライフケアを株式会社 global bridge の存続会社として吸収合併、保育事業を統合する株式会社 global bridge の社名を株式会社 global child care に変更
2021年 4月	株式会社 social solutions の社名を株式会社 CHaiLD に変更
2022年 1月	グループのブランドイメージ統一のため、株式会社 global bridge HOLDINGS の社名を AIAI グループ株式会社に、株式会社 global child care の社名を AIAI Child Care 株式会社に、株式会社 global life care の社名を AIAI Life Care 株式会社に変更
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより東証マザーズ市場から東証グロース市場へ移行

出所：有価証券報告書よりフィスコ作成



## 事業概要

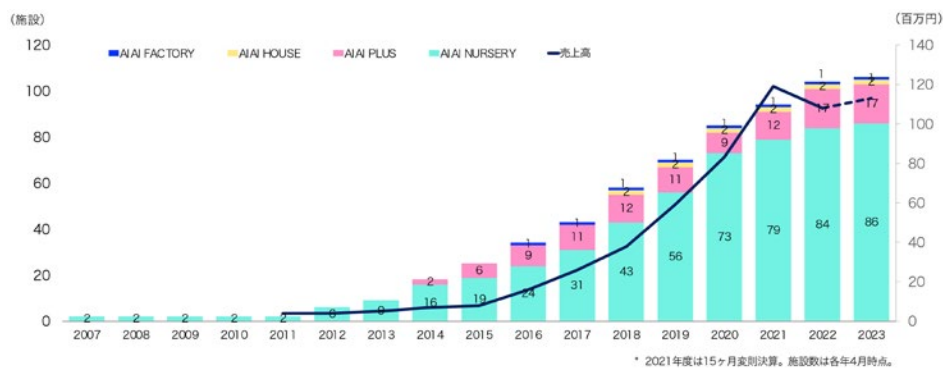
### 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能型施設 AIAI PLUS が主力

#### 1. 事業概要

同社は千葉県・東京都・大阪市及び神奈川県を事業エリアとして、認可保育園 AIAI NURSERY、多機能型施設（児童発達支援及び保育所等訪問支援事業所）AIAI PLUS を主力に幼児教育プログラム等も展開している。なお 2023 年 3 月期までは事業区分をチャイルドケア事業、ライフケア事業、テック事業としていたが、2023 年 5 月に策定した AIAI グループ中期経営計画 2023～2025 を踏まえて、2024 年 3 月期より単一セグメントに変更した。

2024 年 3 月期は上期に AIAI NURSERY を 5 施設新規開設（うち 1 施設は定員を拡大して移転）し、上期末時点の施設数は AIAI NURSERY が 86 施設（東京都 30 施設、神奈川県 3 施設、千葉県 42 施設、大阪府 11 施設）、AIAI PLUS が 17 施設（東京都 2 施設、千葉県 13 施設、大阪市 2 施設）、AIAI MAISON、AIAI HOUSE、AIAI FACTORY が各 1 施設の合計 106 施設となった。認可保育園数は業界 6 位規模である。また同社は、未就学児の療育分野の需要増に対応して AIAI PLUS の新規開設も推進しており、AIAI PLUS の新規開設は下期に 3 施設（2023 年 12 月に大阪府 1 施設、2024 年 2 月に千葉県 2 施設）、2025 年 3 月期に 1 施設（神奈川県）を予定している。神奈川県への AIAI PLUS 初開設により、AIAI NURSERY を展開する全都府県において AIAI PLUS を併設する形となる。施設数の増加に伴って売上高も増加基調である。

売上高と施設数の推移

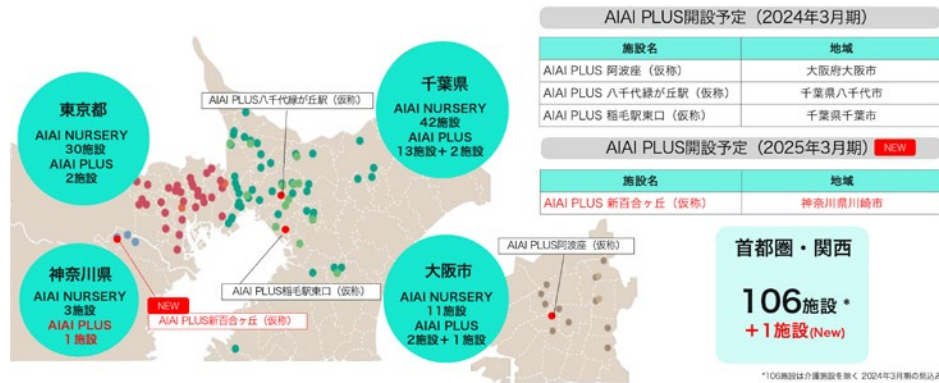


出所：「2024 年 3 月期第 2 四半期決算の概要」より掲載



事業概要

AIAI PLUS (療育) の状況



出所：「2024 年 3 月期第 2 四半期決算の概要」より掲載

## 特色ある独自の幼児教育プログラムなどが特徴・強み

### 2. 特色ある幼児教育プログラムが特徴・強み、千葉県において圧倒的シェア

AIAI NURSERY は児童福祉法に基づいた児童福祉施設で、面積や保育士等職員数など国が定めた設置基準を満たし、都道府県知事等に認可された施設である。国及び自治体が負担する施設型給付（園児や保育士に関する補助金、施設の賃借に関する補助金等）を受けて施設を運営する。小規模保育施設 AIAI MINI は、子ども・子育て支援制度によって新設された保育施設で、19 名以下の定員かつ 0 歳から 2 歳までの子どもを対象として市町村の認可を受けた施設である。利用者からの保育料及び自治体からの地域型保育給付を受けて施設を運営する。

AIAI PLUS は、発達に遅れのある未就学児（小学校入学前の児童）を対象として、日常生活における基本的な動作の指導や知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの児童発達支援のほか、保育所等訪問支援を提供する施設である。1 回 90 分コースのプログラム（運動プログラム、学習プログラム）に週 2 回以上取り組むことで、適切な行動をとるための感覚情報を処理・組織化していく感覚統合を育成し、発達をサポートする。児童の発達支援において多様化するニーズに応えるため、発達に関する専門家が個別にサービスを提供している。また、保育園や幼稚園への出張プログラム提供も実施している。収益は、国民健康保険団体連合会（国保連）に障害福祉サービス費を請求するほか、自費負担サービス料を利用者に請求している。なお自治体補助により、利用者は実質的に原則無償で利用できる。

同社の AIAI NURSERY 及び AIAI PLUS の特徴・強みとしては、特色のある独自の幼児教育プログラムが高い評価を得ていること、千葉県・東京都・大阪府に集中したドミナント戦略によって効率よく展開していることなどがある。さらに近年需要が高まっている未就学児の療育の分野においても豊富なノウハウと実績を有している。

事業概要

AIAI NURSERY は、単に子どもを預かるだけの保育園ではなく、同社は大型遊具「AINI」及び雨天対応大型遊具「AINI BOX」（子どもの運動能力を伸ばす総合アスレチック）を設置しているほか、各施設に専用の学習室を設けて数・図形・文字などに関わる感覚を豊かにするプログラムを実施するなど、「子どもの才能が伸びる園」として就学前能動的学習の充実を図っている。なお雨天対応大型遊具「AINI BOX」は 2021 年 8 月に第 15 回キッズデザイン賞を受賞している。またコスト面では、自社システムによってペーパーレス化を推進するなど保育士の事務作業削減を実現している。AIAI PLUS では 2021 年 4 月にサービス内容をリニューアルし、学習と運動を支援する「プログラムの専門家」として新たな発達支援プログラムをスタートさせた。この結果、特に千葉県においては圧倒的なシェアを誇り、千葉県内における施設用土地・建物賃貸情報を得やすくなり、新卒保育士の採用でも有利な状況となっている。

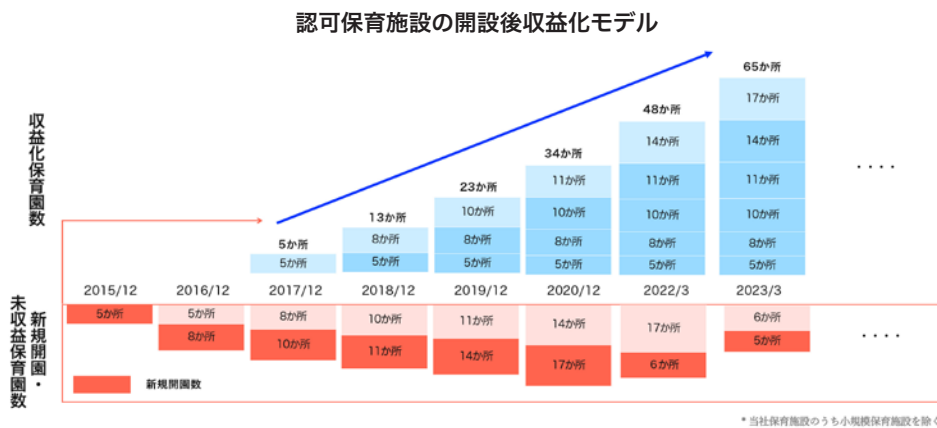
## AIAI NURSERY は開設後 3 ～ 4 年目から収益化

### 3. 収益特性

認可保育園の収益特性としては一般的に、新規施設開設時は初期費用や採用費用などの立ち上げ費用が先行し、開設後数年間は高年齢クラス（3 歳～5 歳）が定員を満たさないため、低在籍数・低在籍率で赤字となる傾向にある。しかし開設後の年数経過とともに低年齢クラス（0 歳～2 歳）の児童が進級を重ねることにより、高年齢クラスの在籍数が増加し、在籍率も上昇して売上高、売上総利益も増加する。開設後 3 ～ 4 年目以降になると在籍数増加・在籍率上昇によって収益化（黒字化）すると言われている。

また四半期別に見ると、認可保育園は 4 月 1 日オープンが原則のため、オープン前後の 1-3 月期及び 4-6 月期に新規施設開設関連費用が増加して経費率が上昇するが、その後 7-9 月期及び 10-12 月期にかけては在籍数増加や在籍率上昇に伴って経費率が低下する。また、各自治体からの設備補助金収入については、収入額の増減や計上時期のズレなどで収益変動要因となることがある。

同社はこれまで、収益基盤構築に向けて積極開設を推進してきたため戦略的に費用が先行して営業赤字が継続していたが、今後は新規開設ペースが落ち着いてくるとともに既存施設の収益化が進展し、収益化した既存施設の比率上昇により全体として安定的な利益を確保する見込みとしている。



出所：「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

事業概要

なお AIAI NURSERY 全施設合計の充足率（稼働率）は、新規施設開設（原則として 4 月 1 日）に伴って定員数が増加するため一時的に低下するが、その後の受入児童数増加に伴って全体の充足率も上昇基調となる。直近の 2022 年 10 月～ 2023 年 9 月の全体の月別園児数及び充足率の推移を見ると、2023 年 4 月は新規 5 施設開設に伴って園児数が増加したものの、定員数増加に伴って充足率が低下した。しかし、その後は園児数増加に伴って充足率も上昇基調となっている。

AIAI NURSERY の園児数及び充足率の状況



出所：「2024 年 3 月期第 2 四半期決算の概要」より掲載

AIAI PLUS の収益特性としては、AIAI NURSERY と同じ建物で運営できるケースもあり、AIAI NURSERY に比べて投資額を抑えられることに加え、AIAI NURSERY との併設によるシナジー効果で集客力や採用力の強化、戦略的な人員配置などにつながるメリットなどもある。さらに AIAI NURSERY は 4 月 1 日オープンを原則とするが、AIAI PLUS はオープン時期を自由に設定できるという柔軟性もあることなどから、AIAI PLUS は AIAI NURSERY に比べて早期の収益化が期待できるという特徴がある。

## 発達障害児童数増加や政府の「異次元少子化対策」などにより 事業環境は良好

### 4. リスク要因と対策・課題

保育・介護分野における一般的なリスク要因としては、利用者の減少、国や自治体による政策変更、関連法規制や許認可、施設における事故や感染症、保育士の確保難、競合激化などが挙げられる。

保育分野においては待機児童問題の解消が進み、今後は利用者減少によって競争激化や採算性低下も想定されている。しかし、保育園の待機児童問題が解消に向かう一方で発達障害児童数が増加傾向という事業環境の変化もあり、引き続き女性の就業率上昇に伴う保育園・多機能施設利用ニーズの高まり、政府によるこども家庭庁創設（2023 年 4 月発足）や「異次元の少子化対策」などが後押し要因となり、事業環境は概ね良好に推移すると弊社では考えている。

なお政府の少子化対策及び幼児教育・保育の質的向上対策として、親の就労を問わず生後 6 ヶ月から 2 歳を対象に誰でも保育を利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」の開始、保育士配置基準における対人数の変更、出産を機に退職した親が再就職する際に子どもを保育所に預けやすくする保育所「入所予約枠」制度の開始、これまで特別区で運用していた地域限定保育士の全国運用の開始、保育士不足緩和に向けた保育補助者支援金の有資格者への拡大など、2024 年度から保育政策が大きく転換する見込みとなっている。

同社は千葉県を中心とするドミナント戦略などを推進し、保育分野にとどまらず、需要が高まっている未就学児の療育の分野においても豊富なノウハウと実績を有するなど競合優位性を維持している。そして今後は、事業環境の変化に対応して、AIAI PLUS における保育所等訪問支援サービスの拡大など新たなビジネスモデル構築を推進する方針としている。2024 年度からの保育政策変更も、競合優位性を発揮してビジネスチャンス拡大につながる可能性があるだろうと弊社では考えている。

## 業績動向

### 2024 年 3 月期第 2 四半期累計は営業黒字定着

#### 1. 2024 年 3 月期第 2 四半期累計連結業績の概要

2024 年 3 月期第 2 四半期累計の連結業績は売上高が前年同期比 6.9% 増の 5,649 百万円、営業利益が 205 百万円（前年同期は 286 百万円の損失）、経常利益が 154 百万円（同 354 百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益が 18 百万円（同 836 百万円の損失）だった。第 2 四半期末時点のグループ合計施設数は 2 施設増加の 106 施設となった。

売上面では、新規施設として 4 月 1 日付で AIAI NURSERY を 5 施設開設（うち 1 施設は定員を拡大して移転）したほか、既存施設において園児数が順調に増加して充足率が上昇したため増収と順調だった。AIAI NURSERY の合計園児在籍数は 2022 年 9 月末が 4,469 人（充足率 93%）、2023 年 3 月末が 4,478 人（充足率 93%）、2023 年 9 月末が 4,769 人（充足率 95%）だった。利益面は営業黒字だった。増収効果や充足率上昇効果に加えて、保育士の適正配置推進や離職率の低下を背景として採用を慎重に行ってきたため採用費が想定を下回ったこと、施設運営や業務の効率化によって人件費や経費の増加を抑制できたことなども寄与した。売上総利益率は 7.0 ポイント上昇して 14.3%、販管費比率は 2.0 ポイント低下して 10.7% となった。

#### 2024 年 3 月期第 2 四半期累計連結業績の概要

(単位：百万円)

	23/3 期 2Q 累計	24/3 期 2Q 累計	増減率	24/3 期 1Q	24/3 期 2Q
売上高	5,286	5,649	6.9%	2,785	2,864
売上原価	4,901	4,841	-1.2%	2,448	2,393
(売上原価率)	92.7%	85.7%	-	87.9%	83.6%
売上総利益	384	808	110.0%	337	470
(売上総利益率)	7.3%	14.3%	-	12.1%	16.4%
販管費	671	602	-10.2%	314	288
(販管費比率)	12.7%	10.7%	-	11.3%	10.1%
営業利益	-286	205	-	23	182
営業外収益	16	12	-20.3%	7	4
営業外費用	84	64	-23.7%	34	29
経常利益	-354	154	-	-3	157
特別利益	2	0	-69.8%	0	0
特別損失	475	145	-69.4%	0	145
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-836	18	-	12	5

出所：決算短信よりフィスコ作成

業績動向

期末施設数

	23/3 期 2Q 累計	24/3 期 2Q 累計	増減数
AIAI NURSERY	84	86	2
AIAI PLUS	17	17	0
AIAI MAISON	1	1	0
AIAI HOUSE	1	1	0
AIAI FACTORY	1	1	0
合計	104	106	2

出所：決算短信よりフィスコ作成

四半期別に見ると、売上高は新規施設開設と期中の充足率上昇によって増加基調である。また売上高の増加に伴って売上原価率と販管費比率が低下傾向となり、営業損益は2023年3月期第2四半期に33百万円の黒字に転換した後は営業黒字が定着した状況となっている。なお第1四半期(4月～6月)は新規施設開設に伴って開園費用が発生するため一時的に売上原価率と販管費比率が上昇するが、2024年3月期第1四半期は前年同期との比較で、増収効果により売上原価率と販管費比率とも低下している。

四半期会計期間推移



出所：「2024年3月期第2四半期決算の概要」より掲載



## 当面は財務面に懸念材料ない

### 2. 財務の状況

財務面で見ると、2024 年 3 月期第 2 四半期末の資産合計は 2023 年 3 月期末比 359 百万円減少して 11,382 百万円となった。主に現金及び預金が 843 百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が 192 百万円減少、未収入金が 450 百万円減少、その他の流動資産が 199 百万円減少、有形固定資産合計が 334 百万円減少した。負債合計は 398 百万円減少して 10,003 百万円となった。有利子負債(長短借入金)残高が 474 百万円減少して 7,926 百万円となった。純資産合計は 38 百万円増加して 1,379 百万円となった。この結果、自己資本比率は 0.7 ポイント上昇して 12.0% となった。

なお 2023 年 3 月に横浜銀行とコミットメントライン契約(借入極度額 500 百万円)を締結した。また 2023 年 6 月 22 日開催の第 8 回定時株主総会の決議により、発行済株式総数の変更は行わず、資本金の額を減少してその他資本剰余金に振り替えた。貸借対照表上の純資産の部における勘定科目間の振替作業であり、純資産額への影響はない。

中長期的には利益積み上げと有利子負債削減によって財務基盤を強固にすることが課題となるものの、現在は成長過程にあることや、2024 年 3 月期第 2 四半期累計において営業活動によるキャッシュ・フローが大幅に改善していることなどを勘案すれば、当面は財務面に特段の懸念材料はないと弊社では考えている。

### 財務諸表及びキャッシュ・フロー計算書(簡易版)

(単位:百万円)

	19/12 期	20/12 期	22/3 期	23/3 期	24/3 期 2Q 末	増減
資産合計	7,824	10,498	12,066	11,742	11,382	-359
(流動資産)	1,821	2,183	2,996	3,362	3,364	2
(固定資産)	5,992	8,308	9,067	8,380	8,018	-361
負債合計	6,862	9,066	10,476	10,401	10,003	-398
(流動負債)	1,663	2,192	2,015	2,012	2,284	272
(固定負債)	5,199	6,873	8,460	8,389	7,718	-670
純資産合計	961	1,431	1,590	1,340	1,379	38
(株主資本)	913	1,397	1,564	1,319	1,358	38
自己資本比率	11.6%	13.2%	12.9%	11.3%	12.0%	0.7pt

	19/12 期	20/12 期	22/3 期	23/3 期	24/3 期 2Q 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	287	385	595	873	1,464
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,905	-2,924	-1,711	-809	-158
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,350	2,206	1,247	293	-462
現金及び現金同等物の期末残高	1,159	817	948	1,306	2,149

注: 20/12 期は開園準備費用計上変更組替後

出所: 決算短信よりフィスコ作成



## ■ 今後の見通し

### 2024 年 3 月期通期の営業・経常利益を上方修正、さらに再上振れ余地あり

#### ● 2024 年 3 月期通期連結業績予想の概要

2024 年 3 月期の連結業績予想は、2023 年 11 月 2 日付で修正（営業利益を 150 百万円、経常利益を 350 百万円それぞれ上方修正）して、売上高が前期比 4.4% 増の 11,300 百万円、営業利益が同 333.6% 増の 350 百万円、経常利益が同 69.3% 増の 700 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 200 百万円（2023 年 3 月期は 506 百万円の損失）としている。

#### 2024 年 3 月期連結業績予想の概要

(単位：百万円)

	23/3 期 実績	24/3 期 予想 (修正後)	増減率	上期進捗率
売上高	10,822	11,300	4.4%	50.0%
営業利益	80	350	333.6%	58.6%
経常利益	413	700	69.3%	22.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-506	200	-	9.0%

注：24/3 期通期予想は 2023 年 11 月 2 日付修正値  
 出所：決算短信よりフィスコ作成

売上面は新規施設開設や既存施設における園児数増加と充足率上昇により期初想定水準の増収を見込む。なお下期には AIAI PLUS の新規開設 3 施設（2023 年 12 月に大阪府 1 施設、2024 年 2 月に千葉県 2 施設）を予定している。営業利益については施設運営や業務の効率化によって人件費や経費の増加を抑制できることなども寄与する見込みだ。経常利益については、新規開設数が期初想定よりも 1 施設増加するため、施設開設補助金（下期に計上予定）が想定を上回ることも寄与する。親会社株主に帰属する当期純利益については、上期の特別損失に子会社 AIAI Child Care における一部固定資産に係る減損損失 145 百万円を計上したため期初予想を据え置いた。なお親会社株主に帰属する当期純利益は黒字転換予想としている。営業利益の上期進捗率が 58.6% と高水準であること、期末に向けてさらなる充足率上昇効果や生産性向上効果が期待できることなどを勘案すれば、通期会社予想に再上振れ余地があるだろうと弊社では考えている。

## ■ 成長戦略

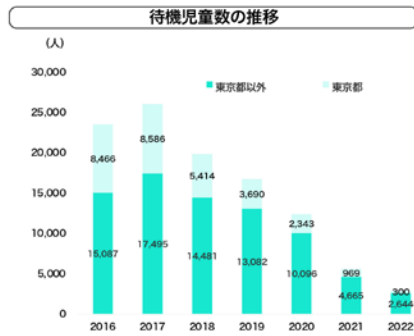
### 事業環境は概ね良好

#### 1. 事業環境は概ね良好

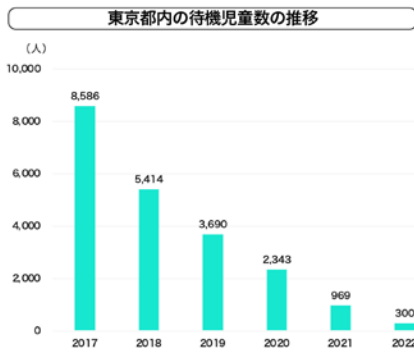
同社が展開する「AIAI 三育圏（AIAI NURSERY が提供する保育、AIAI PLUS が提供する療育、及び子会社 CHaiLD が提供する教育）」を取り巻く事業環境としては、待機児童問題が解消に向かい、業界全体で認可保育園の新設が減少傾向（東京 23 区の新規開設数は 2021 年 4 月の 88 施設から、2023 年 4 月は 27 施設まで減少）となる一方で、少子化の局面でも発達に障害を抱える子どもの数が増加の一途（障害を抱える子どもの数は 2003 年から 2020 年の間で 4.89 倍に増加）を辿り、これに伴って障害児童施設の数が増加基調となっている。また、2023 年 4 月に子ども家庭庁が創設され、少子化対策及び幼児教育・保育の質的向上対策として 2024 年度から保育政策が大きく転換するなど、政府の「異次元の少子化対策」が後押し要因となり、事業環境は概ね良好に推移すると弊社では考えている。

成長戦略

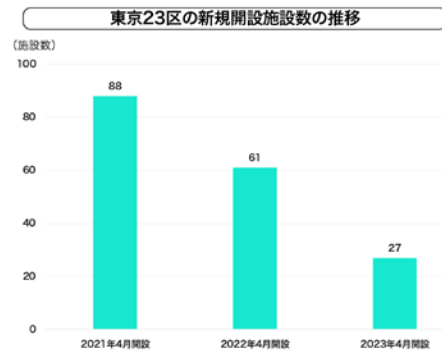
保育園を取り巻く環境



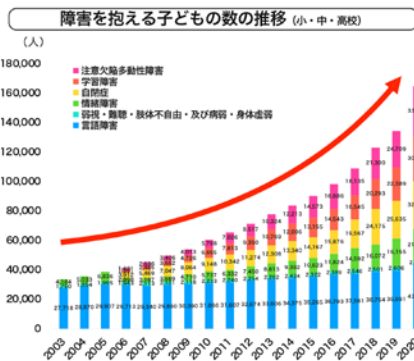
\*「保育所等関連状況取りまとめ」(厚生労働省)および「都内の保育サービスの状況について」(東京都福祉保健局)より作成



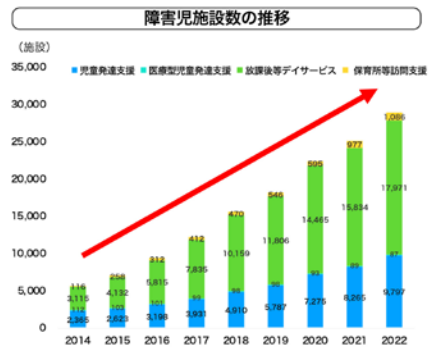
\*東京都「都内の保育サービスの状況について」(2022年7月27日)



※東京都23区各自治体ホームページにおける公表情報をもとに当社調べ



\*「特別教育支援資料(令和3年度)」(文部科学省 令和4年11月)より出典



\*厚生労働白書(令和4年版)より作成

出所:「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

## AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025

### 2. AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025

待機児童問題が解消に向かう一方で発達障害児が増加傾向という事業環境の変化や、同社の AIAI NURSERY が利益化フェーズ入りして連結営業利益が 2023 年 3 月期第 2 四半期に初めて黒字化したことなどを踏まえて、同社は 2023 年 5 月に AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025 を策定した。テック分野の位置付け見直し、訪問支援サービスや幼児教育プログラムなどの新たなビジネスモデル構築なども織り込んだ。目標数値としては 2026 年 3 月期の売上高 120 億円 ~ 130 億円、営業利益 3 億円 ~ 5 億円、3 ヶ年累計投資額 6.8 億円などを掲げた。

#### 目標・指標等

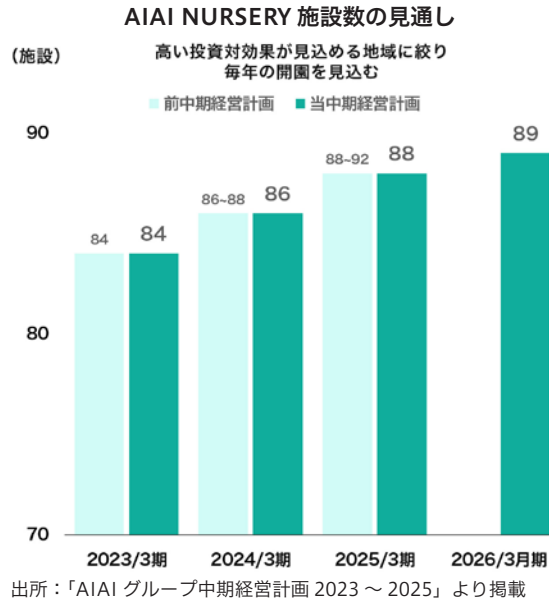
	2024/3期	最終年度 2026/3期	
経営数値目標	売上高 (連結)	113億円	120~130億円
	営業利益 (連結)	200百万円	300~500百万円
	投資予定額 (連結)	420百万円 <small>*AIAI NURSERY 400百万円 *AIAI PLUS 20百万円</small>	26/3期までの3か年累計 680百万円 <small>*AIAI NURSERY 660百万円 *AIAI PLUS 20百万円</small>
経済的価値指標	出店数	8施設 <small>*AIAI NURSERY開設 5施設 *AIAI PLUS開設 3施設</small>	24/3期~26/3期の3か年で <small>*AIAI NURSERY開設 8施設 *AIAI PLUS開設 4施設</small>
	利用者数	4,500人程度	4,500人~5,000人程度
社会的価値指標	年間保育所等訪問支援実施数	3,000回程度	6,000回程度
	社内ライセンス取得者数累計	70人程度	26/3期までに 110人程度 <small>*移転開設を含む</small>

出所：「AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025」より掲載

基本戦略としては、待機児童問題の解消に伴って業界全体で認可保育園の出店速度が鈍化している状況を踏まえ、認可保育園については今後市場が成熟期に突入することも念頭に置き、引き続きニーズ及び投資対効果の高い地域への出店を継続し、業界再編も見据えた取り組みを推進するほか、AIAI NURSERY と AIAI PLUS を中心とした「AIAI 三育圏」によるグループシナジー効果の最大化を図る。

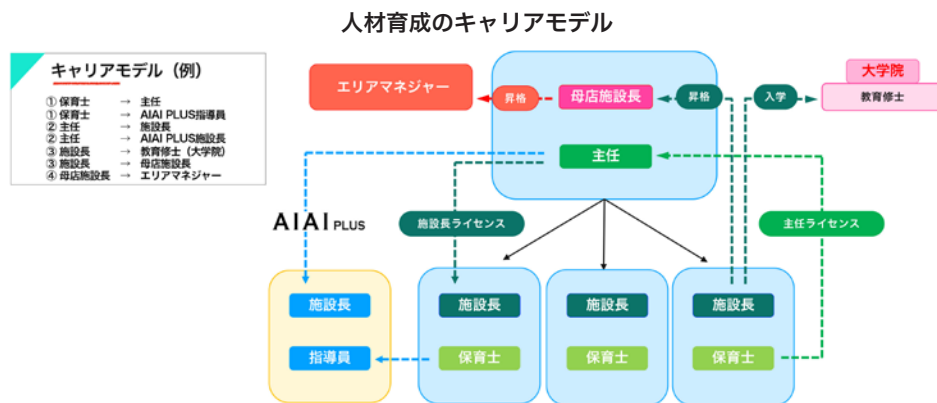
具体的戦略としては、AIAI NURSERY については 2026 年 3 月期末の施設数を 89 施設の計画としている。M&A も視野に入れるが、自前の新規施設開設スピードを抑えて利益の安定成長を推進する。また今後の金利環境の変化にも柔軟に対応するため、大型投資には自己資金の活用を優先する。AIAI PLUS については 2026 年 3 月期末の施設数を 21 施設の計画としている。AIAI NURSERY に次ぐ成長の柱として育成を継続するが、サービス品質のさらなる向上と収益の最大化を図るべく作業療法士など有資格者の獲得・育成に注力するため、人材獲得・育成ペースに合わせた出店計画を新たに策定した。同時に、専門家が保育施設を訪問してプログラムを提供する保育所等訪問支援を軸に、新たなビジネスモデルを構築して収益拡大を図る。

成長戦略



テック事業については、事業環境の変化を踏まえて、これまでの成長分野という位置付けを見直し、同分野のリソースを「AIAI 三育圏」構築に向けて再配置する。子会社 CHaiLD の商材であった保育 ICT プロダクトについては、2023 年 3 月期にソフトウェア全額を減損損失として計上するとともに、サービスの見直しを実施済である。

コーポレート関連の取り組みとしては、財務・資本面において引き続き自己資本の充実を図り、財務面から事業の安定的成長を支えることを目指す。人的資本面においては、施設・オフィスの全ての社員が働きやすい環境整備や人材育成を促進する。AIAI NURSERY 及び AIAI PLUS においては、施設で働く職員のライフステージや働き方などの志向に応じたワークスタイルの選択肢を増やし、仕事と家庭の両立をサポートすることで長く活躍できる職場環境を構築する。



出所：「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」より掲載

## 現在は成長過程のため投資や財務体質改善を優先

### 3. 株主還元策

株主に対する利益還元については、現在は成長過程にあり、事業拡大に向けた積極的な設備投資や財務体質の強化を行うことが、株主に対する最大の利益還元につながると考えている。このため創業以来配当を実施しておらず、当面はこの方針を継続するとしている。将来的には、各事業年度の経営成績や財政状態を勘案しながら株主への利益還元を検討していく方針だが、現時点において配当実施の可能性及び実施時期等については未定としている。

## サステナビリティ経営

### 4. サステナビリティ経営

サステナビリティ経営への取り組みとしては、グループビジョンである「人口問題を解決する」を根幹として、質の高い保育の提供や地域の保育ニーズへの貢献、女性活躍推進や多様な働き方実現、業務効率化やペーパーレス化による環境負荷軽減など、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献している。今後も、財務的な価値の向上とともに、非財務価値の向上にも注力する方針だ。

#### ESG/SDGs の取り組み

	創出価値・目指す姿	貢献するSDGsのゴール	取り組み例
福祉・教育の充実	質の高い保育の提供 - 療育体制の充実 - 小学校就学を見据えた教育の充実等	3, 4, 5, 8, 10, 11	・ AIAI NURSERYとAIAI PLUSとの連携 ・ 幼児教育プログラムの充実・展開 ・ AIAIレポートを通じた家庭との緊密な連携
共創社会の実現	地域の保育ニーズへの貢献  新たな価値の共創	3, 4, 5, 8, 10, 11, 17	・ 地域ニーズに対応した保育施設の展開 ・ 地域と連携した子育て支援（保育所等訪問支援） ・ 雇用促進  ・ 他社との協業の推進 ・ あらゆるステークホルダーとの連携の強化
人的資本	人の育成  女性活躍推進／多様な働き方の実現  働きやすい職場環境	4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	・ 社内研修体制の充実 ・ ライセンス制度によるキャリア形成支援 ・ 社外プロジェクトへの参加  ・ ライフスタイルに応じた働き方の整備 ・ 女性リーダーの継続的育成  ・ 出産、育児、介護と両立して働きやすい環境整備 ・ 労働安全衛生・労働マネジメントの推進強化 ・ 健康経営の推進
地球環境の保全	環境負荷の低減	7, 11, 12, 13, 14, 15	・ 環境負荷の低い施設 ・ ペーパーレスな業務体制 ・ 食品ロス・廃棄物削減
ガバナンス	コーポレートガバナンスの強化	1, 2, 3, 8, 10, 16	・ 社内監査制度（インスペクト）の充実 ・ 上場後3年を経過しJ-SOXへの対応のさらなる強化

出所：「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」より掲載

## 安定収益フェーズへの移行を評価、 新たなビジネスモデル構築にも注目

### 5. アナリストの視点

同社は 2023 年 3 月期第 2 四半期に初めて営業黒字化し、2024 年 3 月期は大幅営業増益予想としている。AIAI NURSERY において開設から 3 ～ 4 年以上経過した既存施設の割合が上昇して安定収益フェーズに入った形であり、当面の業績改善を弊社では高く評価している。また今後の保育園市場は競争激化が予想されるが、同社は質の高い独自の幼児教育プログラムや千葉県を中心とするドミナント戦略によって高い競争力を維持しながら収益が安定的に拡大し、AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025 の利益目標についても超過達成の可能性があると弊社では考えている。加えて、発達に障害をかかえる子どもの増加への対応が今後の国の重要政策となる可能性があり、同社が視野に入れている保育所等訪問支援を軸とする新たなビジネスモデルの構築についても注目したいと弊社では考えている。



#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp